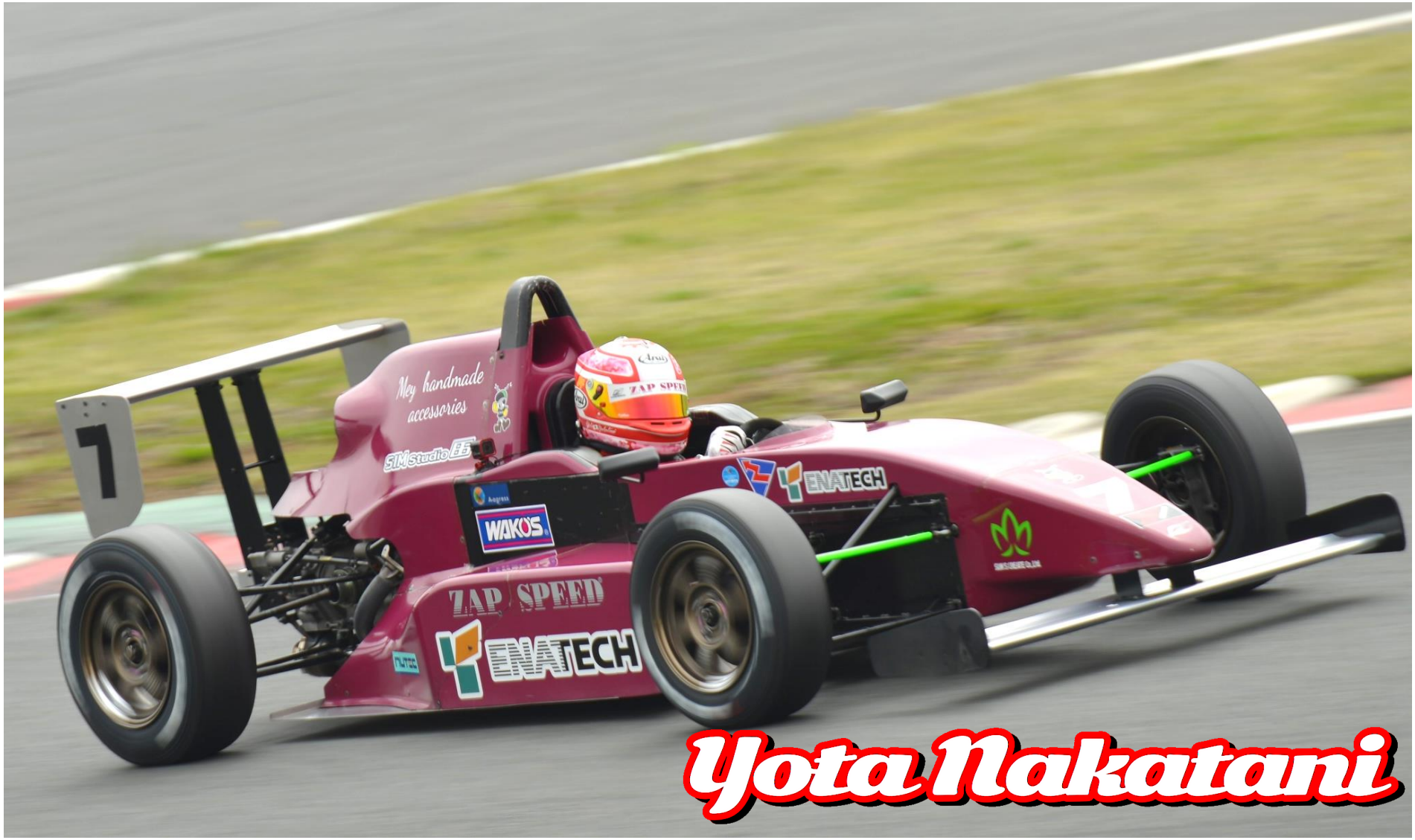
2019 スーパーFJ 富士シリーズRd.1 参戦報告



WAKO'S ENATECH GREEN Hair & Beauty Cheeky ant SIM Studio Mey handmade accessories

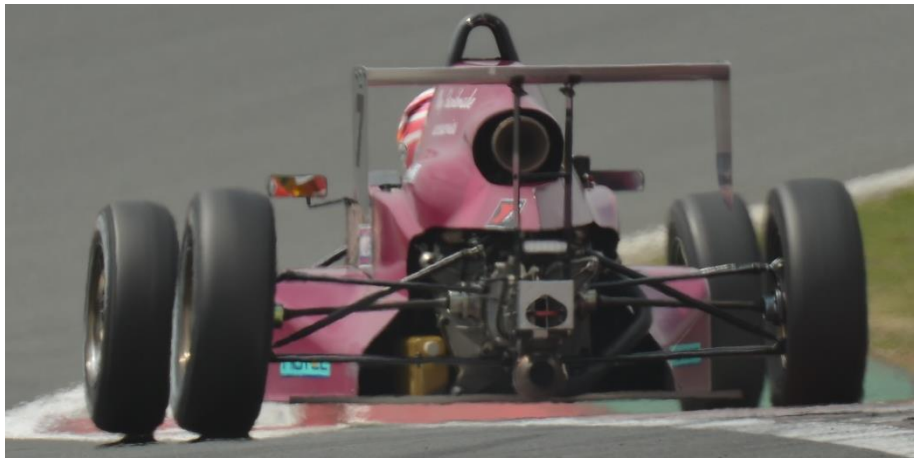
富士スピードウェイ

昨年の日本一決定戦より約4ヶ月のインターバルをあけ
遂に2019年シーズンの開幕を迎えました。

昨年1年間で学んだこと、そして自分に対して甘かったこと
それらを踏まえ今年は確実にチャンピオンを獲得するため
レース前の練習走行、事前準備をしっかり行ってきました。

今シーズンまで富士スピードウェイは走行経験がありません
でしたが、この先上を目指してレースを続けていくなら
ほとんどどのカテゴリーでもこのサーキットは
シリーズの中に組み込まれているので、自分の引き出しを
増やすため、そして昨年のSUGOと全く違うタイプのサーキット
を経験するため富士シリーズにエントリーしました。

参戦台数は5台とかなり寂しい開幕戦となりましたが
ドライバーは私よりも全員レース経験豊富なドライバーで
相手にとって不足はなく、ここでしっかり結果を残すことが
来年以降の自分に繋がることを意識し開幕戦に臨みました。



4/17(水) フリー走行3本

2月、3月と富士にて事前練習を行い迎えたレースウィーク初日。
事前練習は雨が降ったりコンディションがよくない日が続き
いまいちタイムが出ていない状態でした。

1本目、昨年富士王者のドライバーに教えてもらったラインを試すと
良いコンディションの影響もあり事前練習で記録したベストタイムを
中古タイヤであっさり更新。Best 1’54”77

2本目、そのタイヤのまま更にブレーキングポイントやラインを意識して走行開始。走り始めから路面が汚く
なっていてグリップが低いことを感じ、更にストレートで向かい風も強くなり最高速も伸び悩みました。
案の定タイムは伸び悩みましたが、レース当日を考えるとこのようなコンディションになる可能性もあるため
どこを走ればタイムが出るか考えながら走行しました。Best 1’55”06

3本目タイヤを交換し80km走行の中古タイヤへ。ここでも更に路面が汚くなっていて、風は変わらず
また陽は陰り気温、路温ともにかなり下がったため、グリップの上がったタイヤでもベストは更新ならず。
タイムが下がり続けたので少し焦りましたがコンディションの影響と割り切りました。Best 1’55”13

4/18(木) フリー走行2本

2日目、1本目は09:30からで、その走行前に86/BRZが走行。
空は晴れ渡り、気温も高く、風もほぼ無風。
前日3本目に履いたタイヤで走行開始。
内圧を少し高く設定してもらい走り始めましたが、オーバー気味で
数周してすぐピットへ戻り元に戻して走行再開。
コンディションはいいはずなのにグリップレベルが低くタイムも
伸びてきません。しかし原因はすぐわかりました。
86/BRZが出すタイヤカスがコース上に無数に散らばり
フォーミュラのライン上が相当汚い状態に。Best 1’55”20

2本目、フォーミュラのレコードラインが使えないので少し86/BRZのラインに寄せていくことに。
そして内圧を更に下げて走行開始。
この日の路面に合っていたのか、低めの内圧で少しピーキーだったマシンが落ち着き乗りやすくなりました。
走行半ばにピットへ戻り元の内圧へ戻しましたが、やっぱり低めの方が乗りやすい印象でした。
タイムはラインを変えたことで、まだうまくアジャストできなかったために伸び悩みましたが、
マシンの動きがよくなったことと、タイムが出ない原因がはっきりしたため有意義な2日目となりました。
Best 1’55”50

4/19(金) フリー走行2本

3日目の走行は1本目が14:50からで2本目が17:30からと
かなり遅めの走行となりました。

1本目、20日の予選、決勝を想定しニュータイヤを投入。
気温、路温ともに低いため内圧は前日より高めで走行開始。
しかし前日同様少しオーバーステアが強くなりピーキーなマシンに
戻ってしまったため、ピットへ戻り四輪とも内圧を下げました。
するとタイヤの温まりがよくないかと予想してましたが
1周ちょっとで温まり、この気温、路温でも内圧は低い方がいいことが確認でき、コース上はタイヤカスだらけの最悪の状況でみんなタイムは出てませんでしたが、変えたラインには慣れてきました。Best 1’55”39

2本目、マシンはかなり乗りやすくなりましたが下げた内圧がストレートで抵抗になっている可能性があったためフロントのみ少し内圧を上げて走行開始。
するとこれがなりいい感触で、若干悪かったマシンへの応答性がよくなり更に乗りやすいマシンになりました。
最高速も少し伸びたようで、ラインにも慣れ、ここにきてこのレースウィークのベストを更新。
本番前日最後のセッションでいい走りができ、明日への希望が見えました。Best 1’54”68

4/20(土) 公式予選

公式予選開始は10:10から20分間で天候は曇り。
風が少しあり、気温、路温ともにあまり上がらず
前日と同じようなコンディションなので迷いなく前日一番良かった
内圧にしてもらいました。

前車のスリップストリームを使いたいと思い4番目でコースイン。
温まりはよく2周目には温まり切ったと感じていました。
3周目からアタック開始。しかしリアタイヤがまだ温まりきっておらず
オーバースピード気味で100Rへ進入しハーフスピン。
幸いエンジンが切れる前にクラッチを切り、タイヤもなるべくフラットスポットができないようにコントロールできて、タイヤカスもつかず、その後の走行に影響は出ませんでした。
少し頭も冷え冷静にアタックを再開。
序盤、周回を重ねていくうちはタイヤに熱がしっかり入っていて、トップタイムを記録していましたが
マシンが軽くなり一番タイムが出る終盤でいくつか些細なミスを重ねて出してしまい
序盤のタイムを更新できず、トップタイムを塗り替えられてしまい結果は2位。
終盤にミスを少なくして周回できていれば、ポールポジションも見えたので悔やまれますが、決勝に向けて
オンボードを見て反省するところはしつつ、しっかり切り替えました。Best 1’54”754

4/20(土) 決勝

決勝レースは14:25フォーメーション開始で12周。

ポールポジションは逃しましたがミスなくトップに付いていけば
全然優勝は狙える位置で、後続には追い付かれない自信が
あったので序盤タイヤをなるべく早く温め勝負していく作戦でした。

スタートは可もなく不可もなくでしたが、トップがミスし3番手が
スタートを決めたので、1台抜き、1台に抜かれポジションキープ。
13コーナーで抜かれ3番手に後退しますがしっかり前2台に付いていき、4周目の1コーナーで2番手に復帰。
しかし予選トップの58号車は3周目にトップに復帰していて、私が2番手に戻すのに1周使っている間に
少し間隔が広がっていました。
後ろに追いつかれることはないので前だけ見てより集中力を上げ周回を重ね、中盤はファステストを58号車
と塗り替えあいながら周回していましたが、予選同様マシンが軽くなってきたところでなかなかタイムを上げ
られず、少しずつ離され始めてそのまま2位でチェッカー。

悔しいですがファステストラップも記録できずに2位で2019年シーズンの開幕戦を終えました。
予選2位→決勝2位

～まとめ～

今回もたくさんのご声援・ご支援をありがとうございます。
そんな中優勝という結果で恩返しできず申し訳ございません。

今シーズンの開幕戦は2位という結果に終わり、昨年のSUGOから数えると3戦連続2位で正直に言ってもう2位はいりません。
その思いは昨年からありましたが、シリーズチャンピオンを目指して準備してきた今年は、優勝以外必要ないので、次戦に向けて今回以上にしっかり準備をして挑みます

しかし悔しい思いが強いのは間違いないですが、悪いことばかりではありませんでした。
実は初日からロガーの調子が悪く1本もロガーで走行を解析することができず、またカメラも調子が悪く練習中のベストラップが確認できない中、できることを必死にメカニックの方と考え、最終的にはレース中セクター2のみファステストを記録していました。トラブルが言い訳にはなりませんが、その中でできることはできたと思います。
次戦は5/11と間隔が短いので、今回のいいところのイメージを頭に入れ、次こそしっかり優勝します。

WAKO'S ENATECH GREEN Hair & Beauty Cheeky ant SIM Studio Mey handmade accessories